

山ぼうし

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



第31号 平成19年10月29日

習慣は第二の天性なり

校長 兼 平 栄 補

9月中旬から開始された第1次の就職試験の結果が判明し、10月12日現在73名が内定している。宮古市内の他の専門高校より就職内定率が良く、宮古下閉伊管内への内定者も一番多い。今後第二次以降の合格者も加えると就職者の半数近くが地元に残ることができそうである。本校の地元への貢献度は高い。

ただし、手放しで喜んではいられない。第1次の合格率は80%に達していない。日常の学習活動、部活動、生徒会活動（執行部、委員会活動）を通して磨かれなければならない資質が必ずしも全員満足できる水準に至っていないからである。失敗した生徒の場合、第一に欠席・遅刻・早退が多い、第二に面接時に意思表示が満足に出来ないため、就業意欲が感じられない（元気がない）、第三に基礎学力（一般常識）不足、が失敗の原因としてあげられる。日頃の生活習慣や性格が起因している。日頃の活動状況と合否との関連を示す端的な例は、部活動別の合格率である。運動部の約90%に対し、文化部は約60%である。ある文化部の場合、7名受験して合格はわずかに1名である。

一方採用に当たって、望ましい人物の条件として次のようなことがあげられる。

- (1) 積極性があること。与えられた仕事以外にも仕事を見つけ仕事をしようとする人。
- (2) 協調性があること。職場は自分一人では効果を上げ得ない。チームの中で自分の役割を踏まえ、その上に立って行動出来る人。

- (3) 誠実であること。人生に対する真面目さ、自己に対し常に誠実であろうとする精神的態度をいう。ルールを守れる人。
- (4) 明朗であること。会社の人事担当者は「明るくて、健康で、優秀な人」といって真っ先に「明るい人」をあげる。第一印象との関連も大きい。
- (5) 理解力、判断力、表現力があること。質問内容を正しく把握し、簡潔に的確に伝達事項を相手に理解させることが出来るよう表現力がある人。
- (6) 強健であること。体力は言うに及ばず意志の力も強健で粘り強いこと。欠席、遅刻、早退はできるだけ避けるように努力できる人。

今後採用試験を受験する三年生はもちろん、1・2年生の諸君は、このことを踏まえ、自己分析を行い、改善しなければならない。

「習慣は第二の天性なり」という言葉がある。「日常の生活習慣は、繰り返しているうち、やがて生まれながらの性質と同じようになってしまう。」ということだ。「良い習慣を身につけるということは良い人格を身につける」とも言える。読書の習慣、時間を守る習慣、運動する習慣、早く行うより入念に行う習慣、目標を持って努力する習慣、人から学ぼうとする習慣、自省の習慣、等々の良い習慣を身につけてもらいたい。「はじめは人が習慣を作り、それから習慣が人を作る」という言葉もある。自分の性格を変えたいと思ったら、今からでも遅くないのだから、身近なところから自己変革に取り組むべきである。

11月行事予定

11月 1日 (木)	防災避難訓練
11月 3日 (土)	危険物取扱者試験
11月 9日 (金)	計算技術検定
11月16日 (金) ~20日 (火)	第3期定期試験
11月18日 (日)	2級管工事施工管理技術検定試験
11月22日 (木)	後期生徒総会
11月23日 (金) ~24日 (土)	ロボット競技全国大会(沖縄)
11月27日 (火) ~29日 (木)	パソコン教室
11月30日 (金)	工業クラブ連盟校内発表会



第14回岩手県工業高等学校ロボット競技大会

「無限」(電気科) 準優勝!! 全国大会へ



10月13日(土)一関市総合体育館でアイデアロボットの大会が行われ、37台のロボットが出場しました。本校からは8台エントリーした中で、電気科の「無限(インフィニティ)」と電子機械科の「三陸号」がベスト16に入り決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントで「三陸号」は反則行為で失格となりました。電気科の「無限」は初戦、一関工業の「J I S Y A K U N」を75対0で、二回戦大船渡工業の「伍 t r y」を235対0、準決勝一関工業の「74(ななし)」を215対195と勝ち続け決勝戦に進みました。決勝戦では盛岡工業の「佐

々木之機械」に210対315で敗れましたが、堂々の第2位で全国大会の出場を果たしました。

本校のロボットの中には予選通過まで後わずかの活躍を見せたものも多く、一発勝負の難しさに泣いたチームも多かったようです。課題研究の時間で足りず休日も返上して日々製作に努力した生徒の皆さん、本当にご苦労さまでした。

11月16日からの全国大会(沖縄)では更なる改良を加えパワーアップした「無限」の活躍を期待いたします。



第58回新人陸上競技大会・砲丸の部 2位 東北大会出場!!



平成19年9月13日(木)～16日(日)まで、岩手県営運動公園陸上競技場にて開催された第56回岩手県高等学校新人陸上競技大会(砲丸の部)に、本校建築設備科1年の五十嵐陵将君が出場し1年ながら2位(10m87cm)と言う好成績を残し東北大会出場を決めました。砲丸投げでは、計6投の試技で競技を行います。試技順は、前回の競技結果等から試技順が決まり、下位の記録の選手から全選手が3投試技します。結果、上位の8人の選手が残り、残りの3投を試技し、

6投の試技で競技を行います。砲丸の重さも中学迄は5.54kgの砲丸ですが、高校からは6.00kgの砲丸に変わります。春の高総体では高校生になり初の大会でこの重さの違いも苦にせず地区予選を1位(11m14cm)で通過し県大会で8位(10m84cm)の好成績を残しました。上位の選手1位から7位までが全員3年生という結果で、この新人戦には最元終試技者で競技に望む事が出来ました。大会当日は残念ながら土砂降りの雨が降り、足元状態の悪化が競技になりましたが、3位で予選を通過し残り3投に1位通過をかけ競技に望みました。実力を発揮し、11m台の投擲を期待し競技を見守っておりながら11m台には届きませんでした。しかし、他の競技者も11m台はでず1位通過者と同じ10m73cmという結果に終わりました。宮古工業陸上部としては、久しぶりの東北大会出場の権利を手にする事が出来ました。

第12回東北高等学校新人陸上競技選手権大会は、9月28日(金)～30日(日)まで宮城県総合運動公園・宮城スタジアムで開催されました。東北大会では各県の4位入賞以上の選手が集まり各種目24名の選手で競技が行われ、競技前々日に競技場入りし調整いたしました。他の選手の調整を見ながら、本人曰く「みんな、バケモンだ!」と言っていました。やはり、岩手県では自分がバケモンかもしれません、世の中の広さを感じられたのではないのでしょうか。

結果は11m06cmと1投目から11m台を超えベストの記録に届くかと思われましたが、残念ながらこの記録がベストとなり予選を通過する事が出来ず大会を終える事となってしまいました。1位の記録は15m台と差はありましたが、本人も他の競技者同様11m台をしっかりと焼き付け、残り2年間で上位入賞を目指し本人共々気合いを入れ直せる試合だったと思います。

11月には陸上協会の強化選手に選ばれ強化合宿にも参加して参ります。この強化合宿は投擲専門の先生方に基礎から教えて頂きます。普段の練習以上の経験が出来ると事でしょう。しっかり身に付けて帰ってきて貰い陸上の投擲部員に伝達して貰いたいものです。

東北大会競技結果	
試技回数	記録
1回目	11m06cm
2回目	フール
3回目	10m94cm